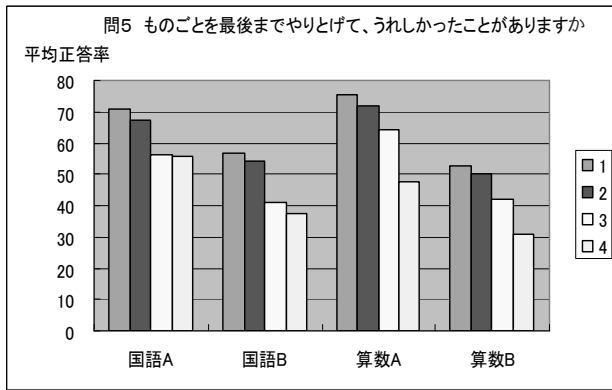


小学校については
相関が見られる質問項目

○ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか(問5)

この項目では、特に算数Aにおいて、正答率との相関関係が強く見られます。



調査結果のまとめ

1 教科に関する調査結果について

○小学校においては国語、算数ともに全体的には概ね良好ですが、特に算数においては学校の差が大きくなっています。中学校においては国語、数学ともに全国・県をやや下回っていますが、特に数学においては学校の差が大きくなっています。それぞれの学校が自校の結果をしっかりと分析し、授業改善等に取り組む必要があります。また、中学校段階で見える課題は、小学校からの積み重ねの結果でもあるという視点を持って、校区の小・中学校が情報や課題を共有し、連携して学力向上に取り組むことが重要です。

2 質問紙調査結果について

○質問紙調査結果から、大山町の子どもたちは、概ね基本的な生活習慣は身につけている状況がうかがえます。特に、小学校では読書が好きな児童が多く、

家庭における1日の読書時間も長いことがうかがえます。

○小学校では「自分には良いところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が低く、中学校では「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた生徒の割合が低い傾向にあります。自己肯定感を高めるための取り組みや、将来の自分の生き方を考える学習場面などを意識的に設定することが必要です。

○全国的に小・中学生が携帯電話を持つことから生じるさまざまな課題が指摘されていますが、大山町では携帯電話を持たない児童生徒の割合が高く、小学生81・8%(全国68・4%、県79・8%)、中学生76・6%(全国38・1%、県63・6%)となつています。特に中学生の割合が大きく異なっており、子ども達を取り巻く生活環境に違いがあることが分かります。

○大山町では学習塾(家庭教師を含む)に通っていない児童生徒の割合が高く、小学生

68・8%(全国51・5%、県61・9%)、中学生46・1%(全国35・8%、県41・7%)となつています。大山町の地理的な条件によつて差が生じていると考えられますが、家庭での学習を充実させることが重要であり、学校の支援も検討する必要があります。

3 教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関連について

○教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関連から明らかのように、生活習慣や学習環境などは学力に大きな相関があると思われまふ。学力の向上は学校の授業改善のみによつて行われるのではなく、家庭での良好な人間関係や生活習慣が土台となつていることから、学校と家庭が情報や課題を共有し連携して取り組むことが重要です。

○学力と生活習慣・学習環境の相関は、小学生と中学生によつて同様な傾向がうかがえる項目もあれば、傾向が異なる項目もあります。また、国語と算数・

数学の教科の違いによつても異なる傾向がうかがえます。学力向上の視点から、結果をきちんと整理して活用することが必要です。

4 全体を通して

○この調査は国語と算数・数学の2教科についての調査であり、また、学力のうちペーパーテストではかることができるものの結果です。そして、学力ばかりではなく生活習慣や学習環境などとの関連を考察できる有効な調査です。情報を全教職員や保護者と共有しながら、児童生徒個々の指導、学校全体の教育活動に生かしていくことが重要です。

○教育委員会は、今年度以降も継続して本調査に協力・参加することで大山町の小中学生の学力等の状況や指導の現状、課題をより正確に把握し、今後の教育施策の充実を図っていきます。

※全国学力・学習状況調査の大山町の結果については、町のホームページに詳しく紹介しています。